

# 家庭科における「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法リーフレット

「主体的に学習に取り組む態度」の評価についてこんなことお悩みではないですか？



実習中は安全管理や時間が気になって、評価が難しい…

毎時間評価しないといけないのかな？

小中学校での学びの定着がないと、自立に向けた思考や判断ができないのでは？



## 目次

- 府立学校 実践事例 1 家庭基礎 「生活の自立（衣生活をつくる）」 【p. 2～】
- 府立学校 実践事例 2 家庭基礎 「食生活と健康」 【p. 7～】
- まとめ 【p.10～】
- 参考資料 【p.12～】

このリーフレットでは、これらの解決のために複数の先生方で試行錯誤しながら、実践、協議した中で分かってきたことをまとめています。記載している事例は、あくまで一例ですが、ぜひこれからの実践の参考に役立ててください。

# 府立高校の実践事例 1 家庭基礎 「生活の自立（衣生活をつくる）」

## 目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
衣服の購入・着用・管理の際に必要な基礎的・基本的な知識と技能を身に付ける。	衣服の購入・着用・管理の際に身に付けた知識や技能を生かし、自身の状況や条件を考慮して、選択することができるようになる。	衣服の購入・着用・管理において課題意識を持ち、より良い衣生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を身に付ける。

## 単元の評価規準（実現したい生徒の姿）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>衣服の購入・着用・管理の際に必要な基礎的・基本的な知識と技能を身に付けている。</li> <li>一定時間内に基礎縫い、ボタン付けができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>知識や技能を活用して、衣服の購入・着用・管理の際に場面や条件に応じた適切な選択ができる。</li> <li>自分で裾直しなどの修繕をするために、適切な方法の選択ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自ら意欲的に情報収集し、その情報を生かして、より良い作品制作や衣生活の実現に向けて取り組もうとしている。</li> <li>様々な知識や技能を関連させて、実生活に生かそうとしている。</li> </ul>

## 単元の流れ

小中学校で学習した基礎縫いの方法の確認、技能の復習をする（春休み練習課題）（0時間）

基礎縫い及びボタン付けの方法を理解し、技能を習得する

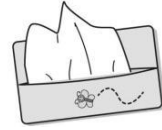
- ・ 作品を完成させる
- ・ 刺繍の図案作成、刺繍の実施
- ・ 実習内容を記録し自身で評価する（4時間）

衣服の購入・着用・管理について学習する

- ・ 衣服の着用・管理・処分まで見通した衣服の購入・選択について考える
- ・ テーマに応じたトータルコーディネートを考える（3時間）

単元計画はp.16、17

## 「主体的に学習に取り組む態度」の総括的評価



### (1) 評価場面① スウェーデン刺繍(ティッシュケースの作成)

- 1 基礎縫いでティッシュケースを作成する。
- 2 作成したティッシュケースにボタン（2つ穴 or 4つ穴 or スナップ）を1つ以上つける。
- 3 ケースの口の部分に直線で2本以上、2色以上の糸を使って刺繍をする。

### (2) 判断基準

「十分満足できる」状況(A)	「概ね満足できる」状況(B)
(B) を完成させた上で、1種類以上の直線以外の模様に取り組んでいる。	2色以上を組み合わせた直線の模様の刺繍をしている。

「努力を要する」状況(C)と判断された生徒に対する支援の手だて

基礎縫い段階でつまずいていないかを確認し、必要に応じて個別に補習を実施したり作品例を示したりする。また、練習課題の提出時期と実習授業の間に一定の期間を設けることで、本番の作品作りに取り掛かるまでに練習できる時間を確保する。

「一定時間内に基礎縫いの作品制作ができているか」、「ボタン付けができているか」は、「知識・技能」の観点として評価する。

「より良い作品の実現に向けて取り組もうとしているか」、「実生活に生かそうとしているか」は、

- ・ 刺繍糸の色を変えていること
- ・ デザイン画を工夫していること

に表れるため、「主体的に学習に取り組む態度」の観点として評価する。

**実習課題は、生徒がこれまで身に付けてきたことを発揮できる単元のヤマ場**となっていて、**生徒の達成状況をそこで十分に評価できる**ので毎回評価材料を集めなくて済むね！



(3) 評価例

評価  
B



直線 2 本、2 色以上である  
基本の条件を達成しています。

評価  
A



直線 2 本、2 色以上である  
基本の条件を達成しており、  
途中までですが、直線以外の  
模様がある程度できています。

評価  
A



直線以外の模様で、事前  
にデザイン画の作成が必要  
な複雑なデザインです。

# 「主体的に学習に取り組む態度」の総括的評価

## (1) 評価場面② TPOに応じたコーディネート (パフォーマンス課題)



- ① 次のテーマから1つ選び、トータルコーディネートを考える。  
 テーマ 春：遠足でBBQ                      夏：海水浴への道中  
 秋：いとこの結婚披露宴              冬：イルミネーション散策
- ② トップスとボトムスの衣服について、その衣服に合った布の種類や表示、設定価格（その価格にした理由）を考えて記入する。
- ③ ①②の中で自分らしさを表現する工夫や季節を考慮して工夫したこと、課題に取り組んで気付いたこと、今後の衣生活で生かしたいこと等を記入する。

① トータルコーディネート

**主体的  
に学習に  
取り組む  
態度**

② トップスなど  
設定価格：                      円  
価格の理由：

布の種類：  
組成表示：  
取扱い表示：  
原産国表示：  
その他の表示：

**思考  
の  
評価**

② ボトムスなど  
設定価格：                      円  
価格の理由：

布の種類：  
組成表示：  
取扱い表示：  
原産国表示：  
その他の表示：

- ③ ・自分らしさを表現するために工夫した点  
 ・季節を考慮して工夫した点  
 ・課題に取り組んで気付いたこと  
 ・今後の衣生活で生かしたいこと 等

**主体的  
に学習に  
取り組む  
態度**

## (2) 判断基準

「十分満足できる」状況(A)	「概ね満足できる」状況(B)
自分で調べた知識を活用した衣類の選択・自己表現の工夫がみられるとともに実生活に生かしたいことが記述できている。	授業内容の範囲の知識を活用した衣類の選択・自己表現の工夫がみられるとともに実生活に生かしたいことが記述できている。

「努力を要する」状況(C)と判断された生徒に対する支援の手だて

課題の作成時に、具体的な方法や着眼点の提示、生徒の興味関心に沿った声掛けを行う。また、個性や流行を意識する観点ではなく、着用感や機能性、手入れの簡単さ、性能と価格とのバランス等の観点など、生徒の興味・関心にあわせ、自分で衣服を選ぶ際に生かせるような提案をする。

②の記述から、  
 ・テーマのTPOにふさわしい設定となっているかを「思考・判断・表現」の観点で評価する。

①③の記述から、  
 ・より良い衣生活の実現に向けて取り組もうとしているかどうか  
 ・様々な知識や技能を関連させて、実生活に生かそうとしているかどうかを「主体的に学習に取り組む態度」の観点で評価する。

### (3) 評価例

評価  
B



テーマ 春：遠足でBBQ

#### ◆自分らしさを表現するために工夫した点

自分は明るすぎない色が好きなのでTシャツには黒に近い色のものを選んだ。またBBQ中は外にいると思うので、日光を避けるために帽子をかぶる格好とした。

#### ◆季節を考慮して工夫した点

春で温かい気温の中のBBQだと少し熱くなりそうだったから通気性の良い綿を使った服を選んだ。またBBQ中でも動きやすそうな服装にした。

#### ◆課題に取り組んで気付いたこと・今後の衣生活で生かしたいこと

その時の季節と行き先を考えた上で素材を考慮した服装選びをすることが大切であると分かった。またここまで考えて服を選んだこともなかったため、今後は素材も気にしながら自分の着る服を選び、より快適に外で遊べるようにしたいと考えた。

自分の好きな色や寒暖調節についてなど、授業で触れた範囲の内容が生かされています。また、今後生かしたいことが記述できています。

評価  
A



テーマ 春：遠足でBBQ

#### ◆自分らしさを表現するために工夫した点

古着屋で買うことによって周りの人と服がかぶりにくくした点。トップスとパンツを同じような色にして靴にその補色である黄色を使った。

#### ◆季節を考慮して工夫した点

春は気温が変わりやすいので、脱いだり着たりしやすいシャツを着る。春は暑くて汗をかくこともあるので吸水性の高いコットンを使った服にした。

#### ◆課題に取り組んで気付いたこと・今後の衣生活で生かしたいこと

古着は自分が好き買っているが、リユース商品を買うことは環境問題の解決にもつながると思った。普段自分で服を選ぶことはあっても、デザインや暑さ、寒さで長袖にしたり半そでにしたりするくらいしか考えてなかったが、素材や織り方で強度や着心地も違うので、これからはそれもみて買おうと思った。

入手経路を古着屋にしたり、授業では習っていない補色などについても触れている。また、環境への影響や布の種類など今後の衣生活に生かしたいことが記述されています。

評価  
A



テーマ 春：遠足でBBQ

#### ◆自分らしさを表現するために工夫した点

私は髪がショートでスカートが似合わず、また動き回ることが好きなのでジーンズにした。キャップとジーンズの組み合わせはかっこいい印象になりがちなので、透け感のあるシアーシャツを羽織ってカジュアルな服装にした。

#### ◆季節を考慮して工夫した点

トップスは通気性や吸水性が高く、軽くて動きやすい布を使用した。それらは汚れてしまっても気軽に洗える素材になっている。春はまだ気温が安定せず、昼夜の寒暖差も大きい時期なので暑いときはシアーシャツを体に巻き付けて体温調節することができる。ボトムスは生地が薄くて熱がこもりにくく、柔らかな印象になる。

#### ◆課題に取り組んで気付いたこと・今後の衣生活で生かしたいこと

布の種類が少し変わるだけで、洗濯や乾燥などの取り扱い方が大きく変わった。より質がいい布を使用したり、服をつくるのに手間がかかるほど値段が高くなったりすることが分かった。これまで服を買うときは、デザインだけしか見てないことが多かったが、季節に合った素材や扱い方を知ることができたので今後買い物をするときは布の種類や組成表示などに意識して服を選んでいこうと思う。

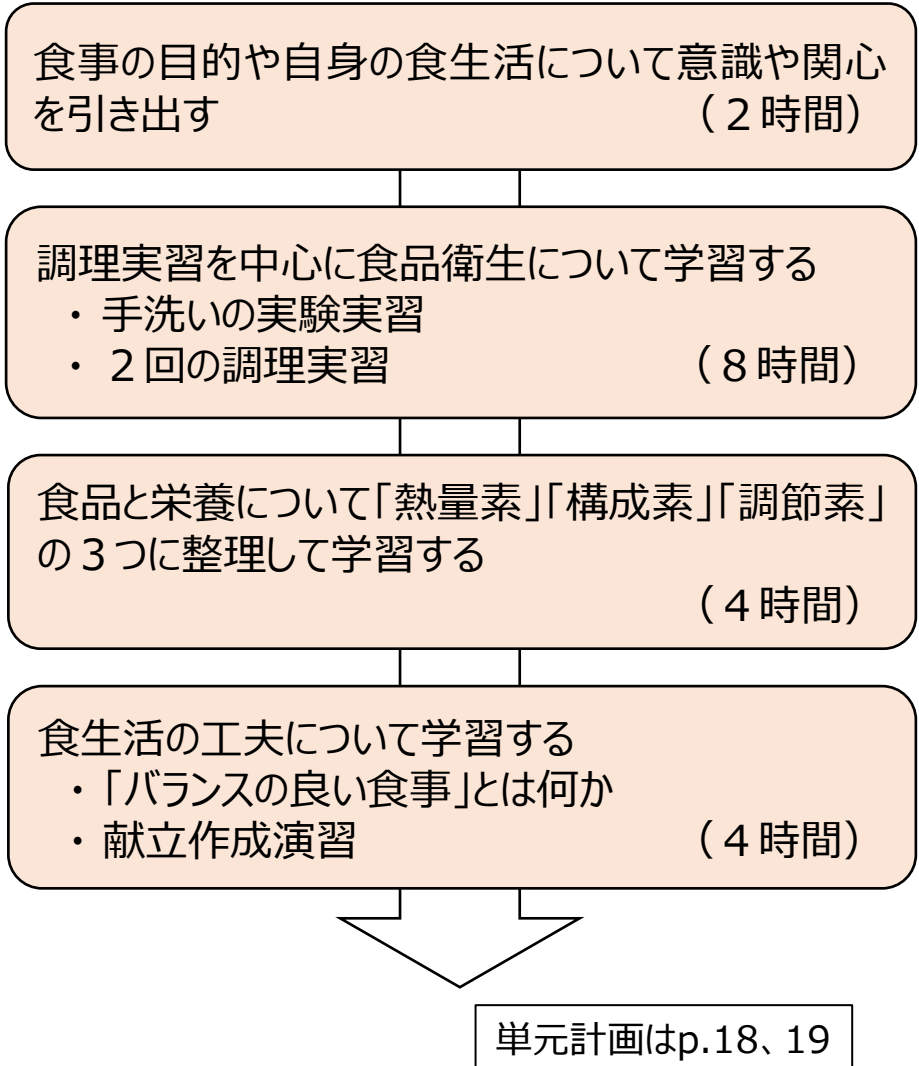
髪型や行動など自分のスタイルを具体的に述べ、自己分析していたり、季節や場面についても具体的に述べられています。授業ではあまり触れていない布の種類と取扱い表示等の関係性や価格についても言及して今後の購入時に生かしたいことが記述されています。

# 府立高校の実践事例 2 家庭基礎 「食生活と健康 実習活動」

## 目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ライフステージに応じた栄養の特徴や食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解し、自己や家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付ける。また、おいしさの構成要素や食品の調理上の性質、食品衛生について理解し、目的に応じた調理に必要な技能を身に付ける。	食の安全や食品の調理上の性質、食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画、健康や環境に配慮した食生活について考察し、自己や家族の食事を工夫する。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、食生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実を図るために実践しようとする。

## 単元の流れ



## 単元の評価規準（実現したい生徒の姿）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>複数のライフステージに応じた栄養の特徴について、食品の栄養的特質に触れて説明ができる。</li> <li>献立作成の手順や考え方を理解している。</li> <li>加熱操作を中心とした食品の調理上の性質と食品衛生の担保について理解している。</li> <li>調理実習において、「包丁の使い方」と「安全な調理操作」ができています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の食生活を振り返るとともに、自分以外のライフステージにおける食生活の配慮について、栄養素に着目して、用いる食材を選択するなど工夫された献立を作成し発表している。</li> <li>安全かつおいしく調理するために必要な操作について理由を考え、これまでの家庭科の学習や他教科の学習を活用し、科学的な視点から説明することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでに学んだ知識や自ら調べたものなども含めて、自身の食生活を振り返り、改善するための方法を自ら考えようとしている。</li> <li>様々な要因（食の安全、調理上の性質、食文化の継承、健康や環境に配慮など）を幅広く組合せて検討し、そのうえでできる限り献立として成立するものを作成しようとしている。</li> </ul>

## 「主体的に学習に取り組む態度」の総括的評価



### (1) 評価場面 栄養を補う献立の提案(ワークシート)

- 調理実習を実施する。
- ワークシートで、今回の実習メニューに不足している栄養を補うもう1品の料理を提案する。

### (2) 判断基準

「十分満足できる」状況(A)	「概ね満足できる」状況(B)
(B) を満たしており、さらに「理由が詳細に示されている」や「実践的・魅力的かつ食材や調理方法に趣向を凝らしたメニューやユニークな角度からの発想が見られ、科学的にも間違いでない提案がされている」などの点で充実したものになっている。	補いたい栄養素や食品を具体的に示した説明が記されており、「レポートの条件」(メニューの形式など) を満たした提案をしている。

#### 「努力を要する」状況(C)と判断された生徒に対する支援のてだて

「『レポートの条件』を満たしていない」もしくは「内容に大きな誤りがある」などの場合、その点を指摘し、具体例を出して生活体験と結び付けるなどし、提案内容の改善を促す。また、生活体験の乏しさや無関心さがあると判断した場合は、具体例を挙げて想像しやすいように提案して生徒自身が気付き、振り返られるように促す。

## 使用したワークシート

実習メニュー ケチャップライス、チューリップのオープン焼き、  
コンソメ・ジュリエーヌ、フルーツゼリー

#### 【献立について】

課題： 今回の実習メニューで不足している栄養素を補うためにもう1品加えたい。加えたい料理を提案し、その理由を説明せよ。

- 条件：
- ① 今回の実習は洋風メニューであった。今回の実習メニューに合うという条件を満たすように洋風の料理で提案すること。
  - ② 理由欄に補いたい栄養素や食品を具体的に示し、それを満たす料理を提案すること。また、栄養素以外の観点から追加すると良い理由があれば追加して示して良い。
  - ③ 調理を伴うメニューで提案すること。食品単品での提案は認めない。  
不可の例：カルシウムが不足するので「牛乳」「ヨーグルト」など

加えたい料理：

理由：



### (3) 評価例

評価  
B

加えたい料理：ヨーグルトドレッシングのサラダ

理由：実習メニューには含まれていない葉物野菜とカルシウムを補いたいので、キャベツ、小松菜、ニンジン、トマトなどの野菜に豆腐を入れ、ヨーグルト、めんつゆ、ごまを合わせたドレッシングをかけたら補えると考えたからです。

これまでの学習や小・中学校での家庭科の学習から得た知識を活用して「葉物野菜」と「カルシウム」の不足を指摘し、食材を挙げ、実習メニューとの整合性がとれた提案がされています。

評価  
B

加えたい料理：トマトとブロッコリーのマヨヨーグルト和え

理由：3群の緑黄色野菜が足りないため、ブロッコリーで補う。また、2群のカルシウムが足りないため、ヨーグルトを足す。6群の油も使いたいのでマヨネーズを入れる。マヨネーズだけよりもヨーグルトが入ることでカロリーも抑えられる。

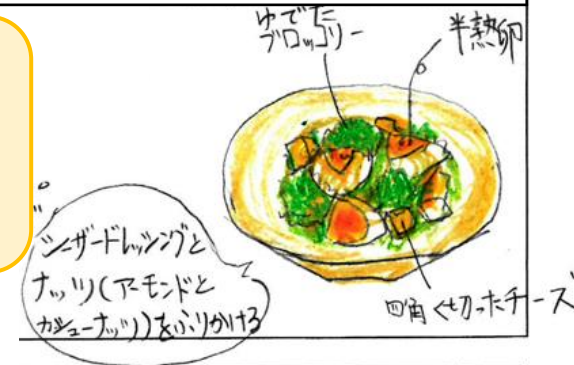
「6つの基礎食品群」を活用して、不足するものを複数見出そうとしています。「緑黄色野菜」と「カルシウム」の不足を指摘し、それを補う食材を挙げ、実習メニューとの整合性がとれた提案がされています。

評価  
A

加えたい料理：ゆで卵とブロッコリーのサラダ  
～ナッツとシーザードレッシング和え～

理由：カルシウムが不足するので、チーズとブロッコリーで補う。またビタミンCと食物繊維もブロッコリーに含まれている。チュールップのオープン焼きだけではタンパク質が足りないののでゆで卵を使う。同時に鉄もゆでたまごで摂取できる。ビタミンEをアーモンド、マグネシウムをカシューナッツで補う。ケチャップライスが赤いのでブロッコリーの緑とゆで卵の黄色で彩りも良くなる。

複数の栄養素に触れた具体的な指摘ができており、提案メニューにも工夫があります。色合いの工夫を述べ、イラストも描いて提案内容を伝えようとする意欲がみられます。



評価  
A

加えたい料理：ほうれん草ときのことしらすのキッシュ

理由：カルシウムが不足するので牛乳とシラスで補う。鉄分と食物繊維、ビタミンEの不足はほうれん草で補う。ミネラルやビタミンB群、Dをきのこで補う。今回のメニューは全体的に赤・茶が多く緑が少なかったため、ほうれん草の緑と卵の黄で色彩を補う。

複数の栄養素に触れており、特にカルシウムやビタミンB群、Dについては栄養計算に基づく正しい指摘ができています。また、提案メニューにも工夫があり、色合いの工夫も述べられています。

## 家庭科では

より良い生活を送ることができるように、  
学習したことと自分の生活とが結び付けられるようにすること

が重要です。

## そこで、授業において

- ・ 生徒自身の生活の中から問題を見いだす場面
- ・ 衣食住など自分の生活に興味を持たせるような問いかけをする場面
- ・ 実習・実験等により体験する場面
- ・ 多様な考えに触れられるようにクラスメイトと対話する場面
- ・ 学習したことを今後の生活にどう生かすかを考える場面

を設定することが大切です。

## それにより

- ・ 自分の生活の課題を見いだそうとしているか
- ・ 多くのツールや対話を通して、自分だけでは気付くことのできなかつた様々な課題に気付くことができているか
- ・ 多様な考えがあることに気付くことができているか
- ・ 生活を豊かにするために自分自身で調べようとしているか
- ・ 生涯を見通して考えようとしているか
- ・ 学習したことを踏まえて、自分の生活の改善点を見だし、生かそうとしているか
- ・ より良い社会の構築に向けて、今の自分にできることは何かを考えようとしているか

をワークシートにおける記述等から  
「主体的に学習に取り組む態度」の観点として

評価できる。



日常の当たり前に興味や疑問を持つことが家庭科における思考の原点です！  
そのためにも単元や授業の導入の際に、問いかけから始めてみませんか。



### 例えば…

- 「乳幼児期の生活について…」  
➡「親戚の幼児を半日預かることになった。**どんなこと**に気を付ければよいだろうか？」
- 「適切な住居の計画・管理に必要な技能について…」  
➡「掃除や換気をしないと **どんな** 被害が起こるだろうか？」
- 「被服の目的に応じた着装について…」  
➡「結婚式に参列するのに **どのような** 服装が相応しいだろうか？」
- 「契約の重要性について…」  
➡「ネットショッピングで届いたものは **どうすれば** 返品できるだろうか？」
- 「健康や環境に配慮した食生活について…」  
➡「日本の食料自給率を上げるには **どんな** 策が必要だろうか？」

などの問いから身近に起きる影響や将来、社会について考えてみましょう！

## 参考資料

### (1) 家庭科の目標、見方・考え方

- ・ 共通教科家庭の評価の観点及びその趣旨
- ・ 家庭科における学習過程のイメージ

### (2) 実践事例 1、2 の単元計画のポイント紹介

### (3) 文部科学省や府教育庁等が作成した資料やWebサイトの紹介



## 〈高等学校学習指導要領における教科の目標〉

**生活の営みに係る見方・考え方**を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

### 【知識及び技能】

(1) 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。

### 【思考力、判断力、表現力等】

(2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。

### 【学びに向かう力、人間性等】

(3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

## 〈小学校学習指導要領における教科の目標の柱書〉

**生活の営みに係る見方・考え方**を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

## 〈中学校学習指導要領における教科の目標の柱書〉

**生活の営みに係る見方・考え方**を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、これからの生活を展望し、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

小・中・高に共通する

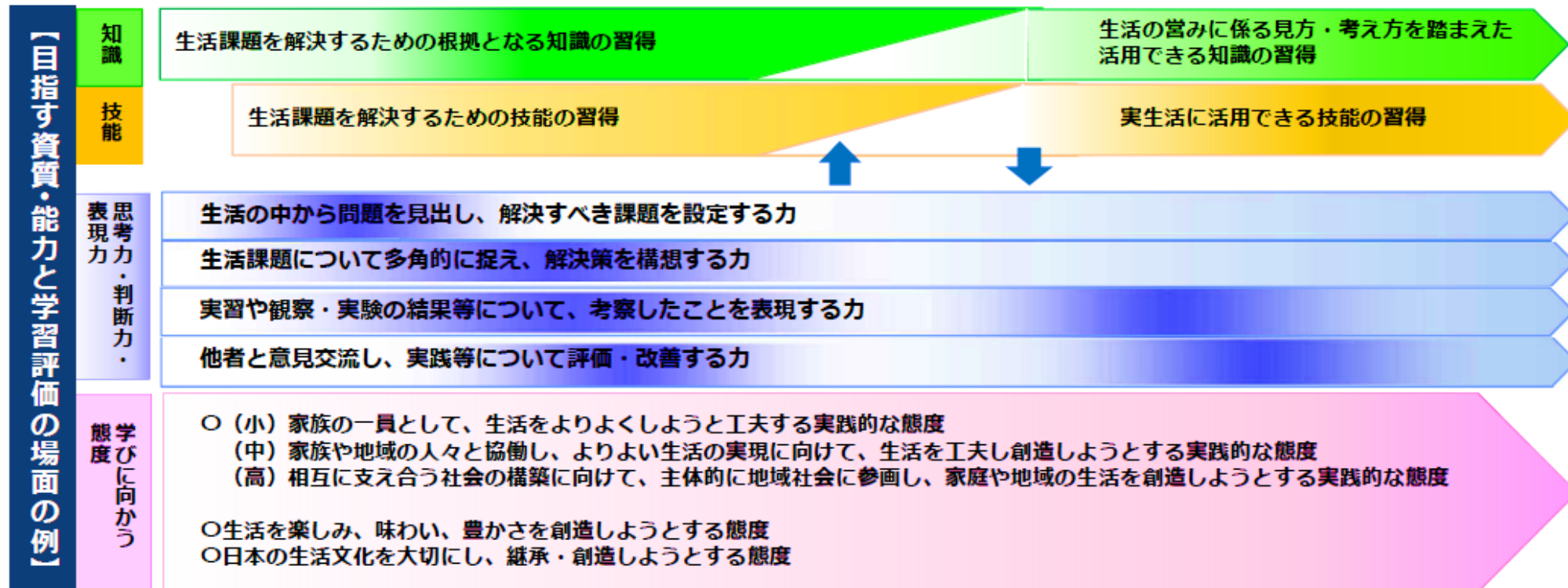
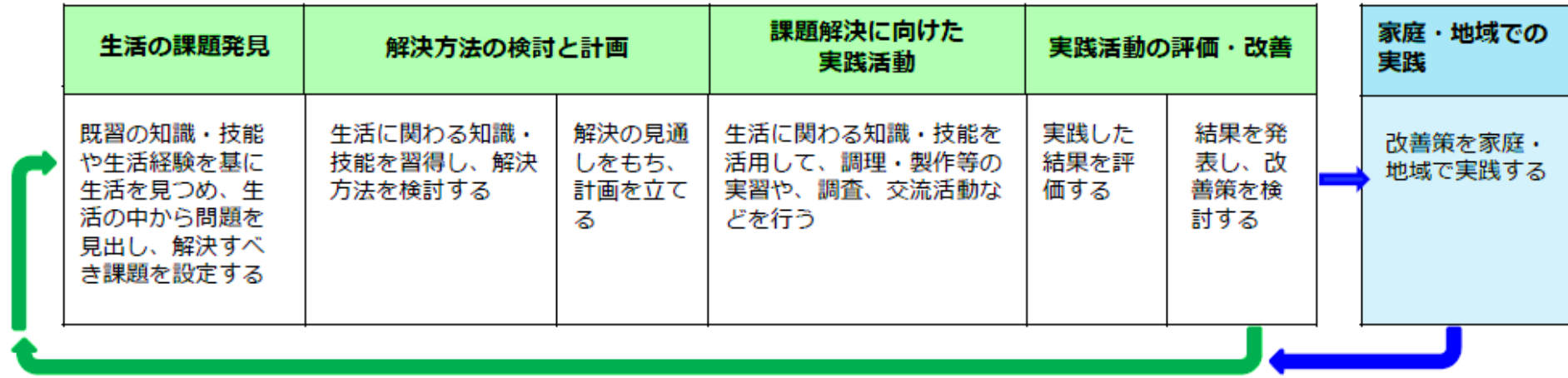
「**生活の営みに係る見方・考え方**」とは？

「家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、**協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること**」

# 共通教科家庭の評価の観点及びその趣旨

<b>知識・技能</b>	<b>思考・判断・表現</b>	<b>主体的に学習に取り組む態度</b>
人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

# 家庭科における学習過程のイメージ



# 参考資料（２） 実践事例 1 単元の指導と評価の計画案

## スウェーデン刺繍のティッシュケースとコーディネート演習

### 単元の指導と評価の計画案(全7時間)

●…形成的評価、○…総括的評価

次	学習内容 [何を学ぶか]	学習活動 [どのように学ぶか]	評価の観点			評価規準【観点】 (評価方法等) [何ができるようになるか]
			知	思	主	
0	基礎縫いの方法を理解し、技能を習得する (春休み練習課題)  課題返却 (実習前の授業) 自身の技能の現状と正しい縫い方の確認する	・被服実習までに自身の技能の定着とスピード向上のために事前課題を提出する。 (Google Classroomで資料の投稿・動画の案内) ・課題返却時に生徒の課題の講評と実物見本での確認により正確な知識・技能の定着をめざす。	●		●	【知】基礎縫い（まつり縫い・本返し縫い）の方法を習得している。規則正しく糸のねじれ等がなく縫うことができる。 (課題) 【主】見通しを立てて事前準備をし、作品をより良いものに仕上げようとしている。 (練習)
1 5 4	基礎縫い及びボタン付けの方法を理解し、技能を習得する	・PPT・動画・書画カメラを用い、正確な技能の習得をめざした実習を行う。 ・作品を完成させる。 ・刺繍の図案を作成し刺繍する。 ・実習後、実習記録を記入をし、自身の作品と完成に至る取組みを客観的に評価する。	●	○	●	【知】まつり縫い・本返し縫い・ボタン付けの方法を習得している。規則正しく糸のねじれ等がなく縫うことができる。 (作品) 【思】自身の作品を客観的に評価できている。 (実習記録) 【主】見通しを立てて事前準備をし、作品をより良いものに仕上げようとしている。 (作品)

生徒に春休みの練習課題として、まつり縫いと本返し縫いの基礎縫いの課題（形成的評価）を課すことにし、これを「0次」としています。1年の学年末考査後、学年のGoogle Classroomを活用し、縫い方についてのPDFを投稿、二次元バーコードによる動画視聴の案内、家庭科準備室前に予備のプリントを置き、自由に練習できる環境を整えました。採点后、実習前に次ページの評価基準A・B・Cと一緒に返却しました。



### 実習記録

※評価表を参考に自分で最終点検をして①～③に記入しましょう。(①は○印をつける)

- ①自己評価 とても良い作品である・良い作品である・少し雑な部分がある・かなり雑になった
- ②上手く出来たところや工夫した所
- ③もう少し頑張ればよかった所や失敗した所

### 被服実習評価票

あなたの作品はの項目に不備があります。確認して、補修すべき部分は補修して使しましょう。

- ①スナップ: 裏布共縫い 糸の乱れ ゆるみ 間違い
  - ②4ツ穴: 裏布共縫い 根巻きなし ゆるみ 間違い
  - ③まつり縫い: 不揃い 粗い 間違い ○美しい!
  - ④本返し縫い: 不揃い 粗い 間違い ○美しい!
- ※一部分でも不備があれば、が入っています。

実習記録に評価表をつけておくことで、生徒はあらかじめどこに注意して実習に取り組むべきかが分かります。

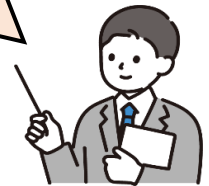


# 参考資料（２） 実践事例 1 単元の指導と評価の計画案

●…形成的評価、○…総括的評価

次	学習内容 [何を学ぶか]	学習活動 [どのように学ぶか]	評価の観点			評価規準【観点】 (評価方法等) [何ができるようになるか]
			知	思	主	
5 ~ 7	着用・管理・処分まで見通した衣服の購入・選択について考える	DVD「衣服と装いの科学」視聴により、衣生活分野の概論を学ぶ。		●		【思】TPOや季節などの条件にあった衣服選択ができています。 (ワークシート) (演習ワークシートの②) 【主】コーディネートを考える中で自ら調査・考察をすすめ、衣生活の授業で得た知識を今後の課題や実生活でどのように活用するかを述べている。 (ワークシート) (演習ワークシートの③)
		プリントによるPPTでの授業(講義)を中心に、画像や布見本等実物に触れ、衣服に関する知識を習得する。			●	
		DVD視聴・講義等で得た知識やChromebookを活用した情報収集をもとにコーディネート演習を行う。		○	○	

衣生活分野の授業に入る前に単元の目標とともに最終的にコーディネート演習の課題提出があることを、事前に授業およびGoogle Classroomで説明し、最終目標を意識しながら授業に取り組んだり、生活の中で気付いたりできるようにしています。



じっくり考え調べたことが、後のコーディネート発表に反映されるように工夫しました

5、6次では、形成的評価のみ行い、総括的評価の前に計画していた支援の手だてを行いました  
【⇒5ページ】

# 参考資料 (2) 実践事例 2 単元の指導と評価の計画案

## 食生活と健康

### 単元の指導と評価の計画案(全18時間)

●…形成的評価、○…総括的評価

※「知識・技能」の観点については定期考査においても、総括的評価を行う。  
各次の評価規準は「学習した内容を正しく理解している」とする。

次	学習内容 [何を学ぶか]	学習活動 [どのように学ぶか]	評価の観点			評価規準【観点】(評価方法等) [何ができるようになるか]
			知	思	主	
1 (2h)	<b>私たちの食事と健康</b>					
	・食事を摂取する理由	「食の名言」作成を通して食の意について見つめ直す。		●		【思】食を食べるという営みや意義に興味を持ち、多面的に捉えることができる。(ワークシート)
	・食生活を振り返る	「食生活チェック」を用いて、自分の食生活について振り返る。			●	【主】自らの食生活を振り返ろうとしている。(ワークシート)
	・健康に配慮した食生活	BMIの計算を通して、体格を評価する上でどのようなことを意識すれば良いかを考える。		○		【思】「体重・身長」「やせ・肥満」など狭義の体格評価にとどまらず、生活と関連させて健康について意識することができる。(ワークシート)
2 (8h)	<b>安全な食生活を営む</b>					
	・食品衛生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食中毒の種類や予防法について理解し、安全な調理や食品の扱いについて意識を高める。</li> <li>・食品の表示を通して、食の安全に関連する項目を確認する。</li> <li>・「手洗いチェッカー」を活用し、普段の自身の手洗いについて振り返る機会を設ける。</li> </ul>		●		【思】衛生を保つ基本操作である「手洗い」について、その留意点を改めて深く検討することができ衛生面への配慮に対する意識を高めている。(ワークシート)

次	学習内容 [何を学ぶか]	学習活動 [どのように学ぶか]	評価の観点			評価規準【観点】(評価方法等) [何ができるようになるか]
			知	思	主	
2 (8h)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調理実習(2回)</li> <li>・調理の基本</li> </ul>	【調理実習】家庭での日常食を題材とし、包丁の扱い方、炊飯、だしの引き方など、調理の知識と技能を体験を通して身に付ける。				<ul style="list-style-type: none"> <li>【思】調理の知識と技能について、調理実習での経験を踏まえてその操作を行う理由や実生活での工夫について考えることができる。(調理実習レポート)</li> <li>【主】調理実習の献立に不足している栄養素を補うために、調理実習の献立に追加する一品を提案しようとしている。(調理実習レポート)</li> </ul>
			●	○	○	

(実習メニュー)

第1回 豚肉の生姜焼き、きゅうりと春雨の和え物、味噌汁、白飯、みたらし団子

第2回 ケチャップライス、チューリップのオープン焼き、コンソメ・ジュリエーヌ、フルーツゼリー

高校で学ぶ範囲の「食品と栄養」についてはまだ習ってはいませんが、これまでの学びがどのくらい自分事として考えられているのかの確認と日常生活の中で意識することを促すために、献立改善の課題は前半に設定しました。



食生活と健康 つづき

単元の指導と評価の計画案(全18時間)

●…形成的評価、○…総括的評価

次	学習内容 [何を学ぶか]	学習活動 [どのように学ぶか]	評価の観点			評価規準【観点】(評価方法等) [何ができるようになるか]
			知	思	主	
3 (4h)	<b>栄養と食品</b> ・栄養素の働き	・五大栄養素について、摂取割合と人体構成割合の差異に着目し、摂取した栄養素が体内でどうなったかについて考える。				【思】五大栄養素について人体でどのような変化が起きているのかという点で、これまでに学んできた知識を科学的な視点と結び付けて考えることができる。 (ワークシート)
		・五大栄養素の基礎的事項は、ワークブックを活用した生徒個々の取組みによって知識を身に付け、実生活への応用について授業で取り上げる。		●	●	【主】ワークブックの課題について、自ら資料を調べるなどして完成させようとしている。 (ワークブック課題)

次	学習内容 [何を学ぶか]	学習活動 [どのように学ぶか]	評価の観点			評価規準【観点】(評価方法等) [何ができるようになるか]
			知	思	主	
4 (4h)	<b>食生活の工夫</b> ・栄養バランスの良い食事 ・ライフステージと食事	・「日本人の食事摂取基準」「食品群別摂取量のめやす」について確認し、今の自分にとってバランスの良い食事とは何かについて考えるとともに、ライフステージによって食生活を変える必要があることを意識する。		●		【思】「バランスの良い食生活」の成立要件としてどのようなものが挙げられるか、自身の食生活と照らし合わせて考えることができる。 (ワークシート)
		・「調理実習の献立に不足しているものを指摘し、献立を補う」を練習課題とし、「家族を設定した献立作成」に取組み、レポートをまとめる。	●	○	○	【思】ライフステージと栄養の特徴を把握し、献立として反映できている。 (献立作成演習レポート)
	・献立作成演習				【主】ここまで学んできた様々な要因(食の安全、調理上の性質、食文化の継承、健康や環境に配慮など)を幅広く検討し、そのうえでできる限り献立として成立するものを作成しようとしている (献立作成演習レポート)	

# 参考資料（3） 文部科学省や府教育庁等が作成した資料やWebサイトの紹介

- ・ 高等学校学習指導要領解説 家庭編

[https://www.mext.go.jp/content/1407073\\_10\\_1\\_2.pdf](https://www.mext.go.jp/content/1407073_10_1_2.pdf)



家庭科の各科目の目標や内容、指導事項など、授業を考えるうえで基準となるものです。



小学校、中学校の学習指導要領解説等の参考資料から、他校種でどのような指導内容を取り扱っているのかなど、確認してみてください。

- ・ 小学校学習指導要領解説 家庭編



[https://www.mext.go.jp/content/20230411-mxt\\_kyoiku01\\_09.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20230411-mxt_kyoiku01_09.pdf)

- ・ 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

【高等学校 家庭編】

[https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r030820\\_hig\\_katei.pdf](https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r030820_hig_katei.pdf)



具体的な実践事例とともに評価について詳しく解説しています。



- ・ 中学校学習指導要領解説 技術・家庭編



[https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_ics/Files/afieldfile/2019/03/18/1387018\\_009.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_ics/Files/afieldfile/2019/03/18/1387018_009.pdf)

- ・ 「観点別学習状況の評価」実施の手引き 各教科事例集

<https://www.osaka-c.ed.jp/category/forteacher/pdf/kanntenbetsu%20.pdf>



観点別学習状況の評価について、パフォーマンス課題での評価規準の例が記載されています。



- ・ 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（小学校編）



[https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326\\_pri\\_katei.pdf](https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_katei.pdf)

- ・ 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（中学校編）



[https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326\\_mid\\_g-gijyut.pdf](https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_mid_g-gijyut.pdf)